

# 公益財団法人CTC未来財団

## 令和6年度（2024年度）第7期事業報告

（2024年4月1日から2025年3月31日まで）

この法人は、明日を変えるITの可能性に挑み、持続可能な夢のある豊かな社会の実現に貢献する「次世代の育成支援」を目的として、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（以下「CTC」という。）が設立者となり、2019年10月1日に設立されました。2021年3月1日に公益認定を受け、公益財団法人として公益目的事業に取り組んでおります。

第7期は、公益目的事業である「児童・青少年に対するIT教育の支援事業」、「ITを志す青少年に対する修学支援事業」、「障がいのある青少年に対する修学及び就労機会創出の支援事業」において、地方でのプログラミングワークショップの開催、講演者を招いての奨学生交流会の実施、障がいのある学生を支援する大学の職員の方を対象にした就労支援セミナーの初開催など、対面での活動を活発化することにより、多くの方々との交流が実現出来ました。

また、活動を通じての情報収集や事例紹介、助成金給付先の研究結果報告を財団ホームページに公開し広く情報発信を行うことで広報活動にも力を入れ取り組んでまいりました。

### 1 事業の概要

#### (1) 児童・青少年に対するIT教育の支援事業

「次世代を支える児童・青少年の育成」に寄与する活動の一環として、小中学生向けのワークショップを開催することにより、コンピューターを意識することなくアルゴリズムに接する機会を提供し、次世代を生き抜くために必要な論理的、創造的、共創的思考力及びコミュニケーション力の形成に寄与することを目的としています。

プログラム言語の習得だけではなく、身近に存在する情報技術に意識を向け、社会の課題解決にデータやテクノロジーを利活用できるよう、ストーリー性をもった教材の開発、貸出を行っています。

#### ① ビジュアルプログラミングによる創作意欲を育むワークショップ事業

Scratchを使ったオリジナルのクイズゲーム教材にて集合対面型の児童向けプログラミングワークショップを7月鳥取県米子市、10月香川県丸亀市、11月群馬県みどり市、12月広島県尾道市の4拠点で実施しました。

#### ② 論理的思考とチームワークを育む教材貸出事業

「みんなでチャレンジ！ITエンジニア」（通称「みんチャレ」）としてWebによる事例紹介を公開するとともに昨年度効果が確認された全国の小学校へのDM発送を行い申込数49件（貸出実施：47校、学びのフェスなど：2件）の教材貸出を実施しました。

#### ③ 論理的思考と情報科学を学ぶカード教材の無償配布事業

一般社団法人情報オリンピック日本委員会（JCIOI）ジュニア部会と協働し制作した、小学1-4年生向け40枚と小学5-6年生向け28枚の「ビーバーチャレンジ学習カード」を1セットとして、2022年9月より無償配布しています。初版のカードセットを2023年6月中に配布が終了し、第2版を増刷しました。2024年度

は 396 セット、累計 1,630 セットを申込のあった小学校等の教育団体に配布しました。また、アンケート結果をもとに教材活用の事例を Web にて公開しています。

④ 特別支援学級の生徒も参加するデジタルアートワークショップ

プログラミングに限らず、情報技術の活用は多岐に渡ることを実感してもらうこと、新たな興味関心を引き起こす体験機会創出を目的に、学校に配備された IT 端末を活用し、デジタルに取り込んだ線画に色を塗ることで、個性を表現するデジタルアートワークショップを 2025 年 2 月東京都立青鳥特別支援学校、同 3 月千葉県南房総市立富山中学校にて実施しました。富山中学校は昨年度に続いての実施です。生徒が制作したデジタルアートをお互いに鑑賞しあうことで、お互いの作品のテーマや制作意図の違いの気づきを促します。またデジタルを活用した自由な表現方法で生徒の創造力を引き出しています。

⑤ 高校生向け教材の開発及び支援

高校の授業で「情報Ⅰ」が必修になったことを受け、高校生向け教材の開発検討に着手し、「デタカツ Education 版」を開発。高校の先生へのヒアリング及び 3 校での試験授業を行いました。

また、新たに「クレジットカード不正利用検知判定ルール作成」ワークショップを作成し協力校を募集する予定です。2025 年度に向け、先ず 1 校のワークショップを実施することで調整を開始しています。

(2) IT を志す青少年に対する修学支援事業

① 新規奨学生の募集及び選定

奨学事業として、2024 年度対象大学 50 校（国公立大 37 校、私立大 13 校）を選定し、ホームページに告知掲載、大学を通して新規奨学生を募集し、選考委員会を経て新規奨学生 20 名を理事会決定しました。

- ・募集期間：2024 年 3 月 10 日から 2024 年 4 月 24 日まで
- ・奨学生選考委員会：2024 年 5 月 21 日
- ・奨学生の決定に係る理事会：2024 年 5 月 29 日
- ・奨学生への決定通知：2024 年 6 月 2 日（大学を通して通知）
- ・応募総数：26 名
- ・決定奨学生：20 名（1 年生 16 名、3 年次編入生 4 名、内辞退者 1 名）
- ・給付金額：月額 6 万円（年額 72 万円）返済不要
- ・給付期間：4 年間（3 年次編入の場合は 2 年間）いずれも正規の最短修学期間
- ・給付時期：3 か月毎に給付

② 2025 年度奨学金対象大学の選定

THE 世界大学総合ランキング（日本版）100 位までの大学を対象に、大学偏差値、大学インパクトランキングのポイントを抽出、上位 50 大学（国公立大 37 校、私立大 13 校）を 2025 年度奨学生募集対象大学として選定し、第 3 回理事会（2025 年 2 月 13 日）にて決定しました。

③ 奨学生交流会の実施

2024 年度は対面（オンライン併用）での交流会を 2024 年 8 月と 11 月の 2 回開催を計画し、49 名の奨学生及び 11 名の卒業生に案内をしました。

8 月の交流会は 2024 年度の新奨学生と既奨学生及び財団事務局との交流、また

既奨学生が企画及び司会進行しゲームなどを企画実施して交流を深め、33名の奨学生と4名の卒業生が参加しました。

また、11月の交流会は奨学生の育成を目的に2つの講演を行いました。1つ目の講演はCTCの協力を得て、CTCAmericaとオンラインで接続し、現地から「シリコンバレーの最新情報」の紹介、2つ目の講演は誰かのことを思いやり適切な理解のもとに行動する「ユニバーサルマナー」の講演を実施、32名の奨学生と3名の卒業生が参加しました。

④奨学生及び給付金学生の学業生活状況の把握

奨学生には、年度末に成績証明書と生活状況報告書の提出を求めています。

併せて、卒業する奨学生には卒業証明書の提出を求めています。

2024年度は9名の学生が卒業しました。

(提出期間：2025年3月10日～2025年4月20日)

(3) 障がいのある青少年に対する修学及び就労機会創出の支援事業

2024年度助成事業として、下記の26大学等へ助成金を給付しました。

【備品・アプリケーション購入】

※障がい表記については大学等各団体の表記を使用

団体名	目的	助成対象
岐阜県立岐阜聾学校	聴覚障がいのある幼児児童生徒が補聴器や人工内耳のみではことばのききとりが困難な環境において、より明瞭なききとりが可能となるよう環境を整える。	補聴援助システム「ロジャー」一式
国立大学法人弘前大学 教育推進機構学生特別支援室	近年学内で増加している発達障害や精神障害の学生に対して、将来の社会生活でも活用できるようなアプリや機器を紹介し、学生生活での利用を促すための環境整備がまだ十分整っていない。発達障害や精神障害の学生だけでなく、聴覚障害や聴覚過敏の学生にも対応できる環境整備を進める。	タブレット端末、ノートパソコン、デジタル耳せん、ノイズキャンセリングヘッドホン、周辺機器等
学校法人日本福祉大学 学生支援センター	VUEVOの導入により、複数人の会話をリアルタイムで視覚化できるようになるため、ディスカッションや演習模擬授業の際に聞き取りに難しさを抱える学生の学習支援において効果を見込むことができると考えている。	会話視覚化サービス「VUEVO」
学校法人京都橘学園 京都橘大学 サポートリンクス (障害学生支援室)	肢体不自由者を対象とし、学内バリアフリー工事が未着手の施設の軽微な段差を解消するために、可搬型スロープを活用する。これまでのバリアフリー工事とあわせて、可搬型スロープの適宜活用により、対象者が自由かつ安全に学内を移動できる環境を創出する。	可搬型スロープ
学校法人 フェリス女学院 フェリス女学院大学 バリアフリー推進室	支援機器の新たな導入により、学生自身の授業理解を深め、授業への主体的な参加を促すことにつながる。また、複数の学生に継続して安定した支援の提供を可能とし、今後の本学の障がい学生支援の質を向上させることができる。	補聴援助システム「ロジャー」一式、ノートパソコン
学校法人大谷学園 大阪大谷大学 障がい学生支援室 <アクセスルーム>	学生の聴こえの状態や授業形態に応じた情報保障を提供するため、情報保障に使用する機材や設備を拡充し、より充実した支援環境を構築する。	補聴援助システム「ロジャー」、タブレット、音響インターフェース機器等

団体名	目的	助成対象
学校法人専修大学 学生厚生部学生生活課 障がい学生支援室	視覚障がい学生の修学支援、防災支援等の基礎的環境整備への活用を目的とし、立体イメージプリンターを導入する。高層階校舎での避難が困難となる障がい学生及び負傷者の避難を円滑に行うため、階段避難車の導入を行う。	立体イメージプリンター、災害・非常用階段避難車
学校法人國學院大學	近年、聴覚及び視覚に障がいをもつ学生の人数が大きく増加する傾向にあり、授業履修における情報保障用の機器を一層充実させる必要がある。	拡大読書器、補聴援助システム 「ロジャー」一式、ノイズキャンセリングイヤホン等
国立大学法人鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構 学生支援センター	ロジャー一式とPCを補充したことにより、聴覚障害や発達障害の学生の補聴援助をおこなうことができるだけでなく、授業の文字起こしに対応することも可能になり、さらに多くの学生のニーズに役立てることができる。	補聴援助システム 「ロジャー」一式、ノートパソコン
学校法人金城学院 金城学院大学 学生サポートセンター	聴覚障害や発達障害のある学生の特性に寄り添う ICT 機器を活用した学修環境の整備を行い、持続的な支援を提供する。教員や他の学生の発言を補助するためのロジャーシステムを利用し、クリアな音声を提供する環境を整える。	補聴援助システム 「ロジャー」一式、タブレット
学校法人根津育英会 武蔵学園 武蔵大学 ダイバーシティセンター	本学の特色でもあるゼミ等でのグループワークやディスカッションにおける情報保障の質の向上が急務であったため、提供する学習機会の質保証に有用と考えられる機材の導入で、更なる障害学生の情報保障を目指す。	補聴援助システム 「ロジャー」一式
国立大学法人 九州工業大学 学生総合支援室	主に視覚障害や聴覚障害、発達障害のある学生の情報保障を目的とし、支援機器の整備を進めていくことにより、様々な授業スタイルや個々のニーズに沿った学習方法を獲得しながら学びを深めていくことを目指していく。	拡大読書器、補聴援助システム 「ロジャー」一式
国立大学法人筑波大学 ヒューマンエンパワーメント推進局	障害学生支援における人的リソースの限界を見据えて、持続可能な支援体制の構築に寄与するために、最新機器 (Head mount display 等) を修学支援で実践的に活用し、テクノロジーを活用した支援のモデルケース創出を目指す。	QD Laser スマートグラス、Apple Vision Pro
国立大学法人神戸大学 インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンター 障害学生支援部門	注意集中が困難で授業での音声を聞き取りにくい発達障害の学生に対し、補聴マイクシステムを用いたサポートを実施する。また、文字起こしアプリの導入により、動画資料制作の作業時間を軽減し、聴覚障害の学生等への迅速な資料提供を進める。	補聴援助システム 「ロジャー」一式、高遮音性イヤホン、動画編集・自動文字起こしアプリ
学校法人立命館 立命館アジア太平洋大学	発達障がいまたは精神障がいの学生がパニック時に利用し、落ち着くことができるカムダウンスペースを整備することにより、これらの学生が安心して大学に来ることができる環境を整える。	カムダウンスペース
国立大学法人富山大学 教育・学生支援機構 学生支援センター アクセシビリティ・コミュニケーション支援室	外部からの刺激から保護し、快適に、安心して過ごすことができる居場所としての「カムダウンスペース」を設置し、感覚過敏等の特性のある学生の修学を支えるとともに、学内の環境作り等、障害特性への理解・啓発活動を行う。	ハイバックソファ、ハイバックチェア等
国立大学法人愛媛大学 教育・学生支援機構 学生支援ユニット	障がい学生と支援者のマッチングや連絡を行うコーディネートシステムの機能を追加し、よりDXを活用したシステムにアップデートを行う。字幕自動生成アプリケーションVrewとVEUVOマイクの追加購入及びライセンスの更新により学生支援の拡充を目指す。	コーディネートシステム、字幕自動生成アプリ「Vrew」、会話視覚化サービス「VUEVO」

団体名	目的	助成対象
学校法人駒澤大学	聴覚障がい学生の情報保障にロジャー等の補聴援助システムの利用及びピアサポーターによるPCテイクを導入している。聴覚障がい学生の増加によるロジャーの不足を解消すること及びコロナ後の授業形態の多様化に対応するため、十分なスキルを持ったピアサポーターの確保をすることで情報保障の安定、向上を目指す。	補聴援助システム 「ロジャー」一式、音声認識・文字起こしソフトウェア 「AmiVoice」、アクセスルーター等
学校法人立教学院 立教大学 しょうがい学生支援室	聴覚情報処理障害のある学生が補助機器の試用を通じて自身の特性に合った対処法を知り、学修効果及び卒業後の生活に役立つ自助スキルを向上させることを目的に、指向性付き補聴援助システムの貸与体制を整備する。	補聴援助システム 「ロジャー」一式
学校法人玉手山学園 関西福祉科学大学 関西女子短期大学	聴覚障害や過敏のある学生等のグループワークの参加のしやすさを向上させるため、ロジャー機器を導入し、物理的・心理的障壁の除去を目指す。また音声認識ソフトウェア音声認識ソフトウェアUDトークの導入により、リアルタイムで講義内容を文字表示できるよう環境を整え、困りごとを抱える学生の学習効率の向上を図る。	補聴援助システム 「ロジャー」一式、音声認識・文字起こしソフトウェア 「UDトーク」
国立大学法人滋賀大学	2つのキャンパスに電子黒板を導入し、情報の視覚化・記載・整理・保存を図ることにより、障がいのある学生のスケジュール管理がさらにスムーズになるとともに、心理士にとっても指導記録を蓄積することでスケジュール調整の効率化を高める。	コピーボード (電子黒板)
国立大学法人筑波大学 附属視覚特別支援学校	視覚に障害のある児童・生徒に、より良い読書環境を提供するため、著作権法第37条第3項に基づいた書籍のデータ化等をスムーズに行える機器を整備する。	スタンドスキャナー、デスクトップパソコン、OCRソフト等

## 【設備】

団体名	目的	助成対象
国立大学法人香川大学 創造工学部	車いすの学生が、エレベータ設備のない施設の2階で開講される授業の受講や研究活動が行えるよう、当該施設に「いす式階段昇降機」を設置する。それにより、全学生に障がいの有無にかかわらず、同じ学びの機会を提供する。	いす式階段昇降機

## 【研究・開発】

※障がい表記については大学等各団体の表記を使用

団体名	研究テーマ	概要
国立大学法人千葉大学 医学部附属病院	キャンパスにおける視覚障がい学生移動支援体制の全国展開モデル	キャンパスを視覚障がい者向けにハード面で整備するには時間と費用がかかるため、障がい者目線でキャンパス内に動線を設定し、歩行支援アプリ Eye Navi を動線にカスタマイズ、音声情報を手掛かりとした移動を全国展開させる。
国立大学法人 宇都宮大学 障がい学生支援室	北欧および欧州（特にドイツ）における「障がい学生」の調査報告	わが国の大学における「障がい学生」への修学支援は、まだ「モデル」となる取り組みは多くない。そのため、いわゆる「福祉先進国」の事例を収集し、それらを参考に、わが国において、より洗練された支援体制と充実した支援内容のモデルを構築する。
国立大学法人鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構 学生支援センター	LOVOT 導入による障害学生の身体や行動の変容についての分析	発達障害や精神障害の学生の居場所になっている学生支援センターに AI 搭載のロボット「LOVOT」を導入することで、障害学生の身体的、心理的、行動的な変容について調査、検討をおこなうことを目的とする。

- ・募集期間：2024年6月1日から2024年7月15日まで
- ・助成金選考委員会：2024年9月9日
- ・助成対象の決定に係る理事会：2024年9月18日
- ・助成対象への決定通知：2024年9月19日
- ・助成金の交付：2024年10月28日（書類提出後随時）
- ・応募総数：29件（備品購入23件、設備1件、研究開発5件）
- ・決定数：26件
- ・決定総額：19,938,700円（申請時金額）
- ・助成総額：19,645,313円

## 2 会議の開催状況及び決議内容の概要

- (1) 第1回理事会・・・2024年5月29日
  - ① 令和5年度（2023年度）（第6期）決算の承認の件・・・承認可決
  - ② 令和5年度（2023年度）定期提出書類（事業報告等の提出）の承認の件・・・承認可決
  - ③ 令和6年度（2024年度）奨学生の承認の件・・・承認可決
  - ④ 代表理事の選定の件・・・承認可決
  - ⑤ 第7期第1回評議員会（定時評議員会）の招集の件・・・承認可決
- (2) 第1回評議員会（定時評議員会）・・・2024年6月18日
  - ① 令和5年度（2023年度）（第6期）決算の承認の件・・・承認可決
- (3) 第2回理事会（決議の省略）・・・2024年9月18日
  - ① 令和6年度（2024年度）（第7期）助成金給付団体決定の承認の件・・・承認可決
- (4) 第3回理事会（決議の省略）・・・2025年2月13日
  - ① 第8期（2025年度）奨学金対象大学及び募集要項決定の承認の件・・・承認可決
- (5) 第4回理事会・・・2025年3月21日
  - ① 令和7年度（2025年度）（第8期）事業計画等の承認の件・・・承認可決
  - ② 「理17\_旅費規程」改定承認の件・・・承認可決
  - ③ 事務局長の任免の件・・・承認可決

### 3 寄附者一覧

2024年度の法人寄附は6社、計145,275,000円、個人寄附は45名、計1,197,000円、総額146,472,000円となりました。

2024年4月1日～2025年3月31日（敬称略・順不同）

法人		
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社		
CTCひなり株式会社		
株式会社ゲットイット		
リコージャパン株式会社		
日本ビューレット・パッカード合同会社		
匿名希望 1社		
個人		
菊地 哲	松島 泰	福澤 有太
阿部 健太郎	伊庭 勇治	伊藤 早紀
奥井 亮佑	奥村 弘幸	下地 俊一
関 鎮	高橋 智幸	今川 聖
小寺 孝典	小林 伶	松元 絹佳
松元 康洋	上神谷 彰克	清水 明弥
田上 俊輔	渡邊 香織	平山 伸一
平田 和人		
匿名希望 23名		

以 上